

高次脳機能障害 生活期における 心理支援の重要性

日時

R6年 2月
22日
(木)

～当事者も支援者も楽になるために 18時30分～20時

講師 鈴木 大介氏 (文筆業)

1973年千葉県生まれ。子供や女性、若者の貧困問題をテーマにした取材活動をし『最貧困女子』（幻冬舎）、『ギャングス（漫画原作・映画化）』（講談社）、『老人喰い』（ちくま新書・TBS系列にてドラマ化）などを代表作とするルポライターだったが、2015年に脳梗塞を発症して高次脳機能障害当事者に。その後は高次脳機能障害者としての自身を取材した闘病記「脳が壊れた」「脳は回復する」（いずれも新潮社）や夫婦での障害受容を描いた「されど愛しきお妻様」（講談社）などを出版。2020年、援助職向けに書き下ろした「『脳コフ』さん支援ガイド」（医学書院・シリーズケアをひらく）にて日本医学ジャーナリスト協会賞大賞受賞。最新刊は初の当事者向け書籍「この脳で生きる・脳損傷のスズキさん 今日全滅」（合同出版）



座長 會田 玉美氏

目白大学大学院リハビリテーション学研究科長
目白大学保健医療学部作業療法学科教授，Ph.D

開催方法 WEB(Webex)+会場
同時開催

会場 東京都立豊島病院
1階 第1会議室
*会場定員20名 先着順

申し込み 下記申し込みフォームまたは
QRコードよりお申し込み下さい
FAXの方は裏面をご覧ください

<https://forms.office.com/r/g8ep3S3MFk>

*事前質問を同フォームより受け付けております（質問入力締切2/1木）

講師より みなさまへ

高次脳機能障害は重度から軽度まで非常にグラデーションのある障害ですが、障害の程度を問わずに共通する点があります。

それが、我々にとっての苦しみは、発症から時間を経るほどに「症状そのものによる苦しさ」よりも、その症状を抱えて「この社会に生きていくことから生まれる苦しさ」へと変遷していくこと。そして失われた機能の回復は身体の麻痺とはまったく違い、3年5年と非常に長い時間を経て徐々に取り戻していくことです。

そんな中、医療の手を離れた後にも当事者が求める支援とは具体的にどんなものなのかを、当事者として、また多くの当事者の代弁者としてお伝えしたく思います。



申込締切
2月15日
(木)

お問合せ

区西北部高次脳機能障害支援普及事業
東京都立豊島病院 患者・地域サポートセンター 波多野・菅原
所在地：〒173 0015 東京都板橋区栄町 33 1
TEL：03 5375 1234 FAX 03 5944 3534

FAX 申込書

FAX：03-5944-3534
区西北部高次脳機能障害支援普及事業
(東京都立豊島病院 地域連携支援グループ 直通)

| 質問事項 | 回答欄 |
|--|---|
| ① ご所属（医療機関名等） | |
| ② 職種 | <input type="checkbox"/> PT <input type="checkbox"/> ST <input type="checkbox"/> OT <input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 看護師 <input type="checkbox"/> リハビリ <input type="checkbox"/> 事務 <input type="checkbox"/> その他（ ） |
| ③ ご氏名（ふりがな） | |
| ④ ご氏名（漢字） | |
| ⑤ ご連絡先（電話番号） | |
| ⑥ 参加方法 | <input type="checkbox"/> 会場参加（先着20名） <input type="checkbox"/> WEB参加 |
| ⑦メールアドレス (WEB参加の方は必ずご記入 ください) | ★後日、WEB参加の方には視聴URLをお知らせします★ ★PCアドレスでのお申し込みを推奨いたします。 |
| ※参加申し込みされる方は下記『個人情報の取り扱い』、『禁止事項』についてご確認いただき『同意する』にチェックしてください。 <input type="checkbox"/> 同意する | |

【個人情報の取り扱い】

ご記入いただいた個人情報は講演会の開催・運営を目的として利用いたします。取得した個人情報は地方独立行政法人東京都立病院機構東京都立豊島病院以外の第三者に提供することはありません。

【禁止事項】

- 講師、参加者の肖像権、プライバシーの権利、名誉、講演会の録画、録音、その他の権利を侵害すること
- 他の参加者の迷惑になる行為、講演会の進行を妨害する恐れのある行為
- 講演会内で不適切な発言や行為があった場合は、主催者側より退場させていただきます。